



システム及びソフトウェア技術－
システム及びソフトウェア製品の
品質要求及び評価（SQuaRE）－
品質モデルの概観及び利用法

JIS X 25002 : 2025

(ISO/IEC 25002 : 2024)

(JSA)

令和 7 年 12 月 22 日 制定

認定産業標準作成機関 作成・審議

(日本規格協会 発行)

一般財団法人日本規格協会 情報分野産業標準作成委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	渡 邊 創	国立研究開発法人産業技術総合研究所
(委員)	相 蘭 敏 子	株式会社日立製作所
	安 形 輝	亜細亜大学
	島 健 夫	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会
	寺 田 真 敏	東京電機大学
	中 上 直 子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	仲 谷 文 雄	一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会
	永 沼 美 保	日本電気株式会社
	服 部 恵 二	総務省国際戦略局
	松 田 充 弘	独立行政法人情報処理推進機構

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：令和 7.12.22
担 当 部 署：経済産業省イノベーション・環境局 国際電気標準課
(〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1)
官 報 掲 載 日：令和 7.12.22
認定産業標準作成機関：一般財団法人日本規格協会
(〒108-0073 東京都港区三田 3-11-28 三田 Avanti)
素 案 作 成 者：一般社団法人情報処理学会
(〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館)
審 議 委 員 会：情報分野産業標準作成委員会（委員長 渡邊 創）

この規格についての意見又は質問は、上記認定産業標準作成機関又は素案作成者にご連絡ください。
なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに見直しが行われ速やかに確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	3
2 引用規格	4
3 用語及び定義	4
4 略語	10
5 SQuaRE 品質モデルの利用の指針	10
6 品質モデルの概観	11
7 品質モデルの枠組み	11
7.1 品質モデルの構造	11
7.2 品質モデルの分類	13
7.3 品質モデル概念のオントロジー	14
7.4 品質要求事項の優先度及び条件	15
7.5 品質モデルの適用及び拡張	16
8 品質モデルの利用法	16
8.1 利害関係者	16
8.2 品質プロセス内での品質モデルの利用	17
参考文献	21
解 説	23

まえがき

この規格は、産業標準化法第 14 条第 1 項の規定に基づき、認定産業標準作成機関である一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準の案を添えて日本産業規格を制定すべきとの申出があり、経済産業大臣が制定した日本産業規格である。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

システム及びソフトウェア技術— システム及びソフトウェア製品の品質要求及び評価 (SQuaRE) —品質モデルの概観及び利用法

Systems and software engineering— Systems and software Quality Requirements and Evaluation (SQuaRE)— Quality model overview and usage

序文

この規格は、2024 年に第 1 版として発行された **ISO/IEC 25002** を基に、技術的内容及び構成を変更することなく作成した日本産業規格である。

なお、この規格で点線の下線を施してある参考事項は、対応国際規格にはない事項である。

様々な組織の機能及び個人の活動は、情報システム及び IT サービスによって遂行されることがますます増加している。それゆえ、高品質な情報システム及び IT サービスは、利害関係者に価値を提供し、悪影響を及ぼす可能性を回避するために、不可欠である。残念ながら、従来、品質保証は主に機能的な要求事項に焦点を当てており、システム及び／又は製品の非機能的な属性には、ほとんど注意を払ってこなかった。情報システム及び IT サービスの全ての品質属性についての包括的な仕様化、設計及び評価は、利害関係者への情報システムの価値を最適化するために極めて重要である。

特定の種類の情報システムに関連する品質特性の包括的な仕様は、品質モデルで表現される。品質モデルは、要求事項の定義、評価、並びに妥当性確認及び／又は検証を支援する客観的な基盤として使用可能である。品質特性及びそれらの測定に関する国際的な合意を確立することによって、SQuaRE ファミリーの規格は、情報システム及び IT サービスの、信頼性の高い世界規模での開発及び提供のための枠組みを提供する。

この規格は、**JIS X 25010**、**ISO/IEC TS 25011**、**JIS X 25012**、**JIS X 25019** 及び今後発行される他の SQuaRE 品質モデルを解釈し、使用するための指針を提供することを意図している。SQuaRE ファミリーの品質モデルは、情報システム、ICT 製品、データ及び IT サービスが、持続可能な開発目標 (SDGs) の目標 4、目標 9 及び目標 11 を達成する上で、その役割を遂行する能力をもつ証拠を提供するために使用される、品質測定量及び評価プロセスの開発をガイドすることが可能である。

この規格は、SQuaRE 品質モデルの構造を紹介し、それらを開発するための要求事項を提供する。この規格では、品質モデル部門 (**JIS X 2501n**) 内の SQuaRE 品質モデルが、情報システムのライフサイクルにわたる品質関連の活動をガイドするために、他の SQuaRE 規格と組み合わせてどのように使用できるかを説明する。これらの品質モデルは、利害関係者の要求事項を満たすために、情報システム及び IT サービスの品質を評価するための測定量の開発をガイドすることが可能である。これらのモデルは、全ての利害関